



発行・
京都障害者
スポーツ会
振興会

「車いすハンドボール」 普及の現状と課題

京都障害者スポーツ振興会
車いすハンドボール競技部長

飯田博

去る11月25日に第18回の全京都車いすハンドボール大会を開催しました。はやりものでもう18回にもなりました。府立体育館の障害者スポーツのつどいの中から生まれた競技ですが、体育館の先生方と一緒に「巡回スポーツ指導」ということで車いす等の用具をトラックに積んで年に何カ所かまわって各地域に広げてきたことや、直接的には、呉竹養護学校中学部の生徒さん達が「この競技であれば、私達にもできる。」と「スタライトキッズ」というチームを組んで練習に頑張っていたことがあって、何とか成果発表の場になる大会をやるうということになりました。

同時に、大会をやるからにはと振興会の事務所（当時は壬生の会館にありましたが）に集まってルールのもとめ作業をしたことも懐かしいことです。

ところで昨年もいろいろ取り組みを行いました。サンアピリティーズ城陽の教室には、作業所の指導に当たられる方々も参加されていきましたので、この競技の良さを少しでも感じていただき、取り組んでもらえないかなと思いましたが、第6回大阪車椅子ハンドボール大会や岡山県倉敷市で開催された第5回日本車椅子ハンドボール競技大会にも参加して来ました。なかでも初めての経験

は、ハンドボールの小学生全国大会を開催している京田辺市の、ある小学校から4年生の体験学習にお招きをいただいたことです。20人位までは何とか対応してきていたのですが、2クラス80人でしかも小学校4年生どんなことになるのか見当もつきません。当日は、私と金子事務局長の2人で行きましたが、とりあえず皆に出来るだけ体験してもらおうとを主眼に、ゲームの紹介ビデオを見たあとすぐに車いすに乗ってもらいスラロームやボールのパスを順番にしました。2時限の予定でしたが、この時点ですでに1時限は済んでいて、焦ってもいたのでいきなりゲームをしました。ルールもトラベリングの反則と、皆でパスをつないでシュートするだけです。一回に出られるのは双方6人計12人ですから7回はしなくてはなりません。最初の組は、なにかおそろおそろといった感じでしたが徐々にスピードも上がり、応援の声も大きくなり得点が入れば歓声や落胆の声が出るといった状況で大いに盛り上がりました。で、時間も少しオーバーしてしまいましたが、

なんとか終えることが出来ました。子供達一人一人にすれば、車いすに乗れたのはせいぜい10分程度ですが、何かを感じてもらえたでしょう。良い体験になったのではと思うばかりです。

さて、岡山で開催された日本大会のことですが、連盟は「共生型スポーツ」との位置づけで取り組んでおられるのですが、結局障害者がゲームに参加しているチームは京都のドリマーズだけでした。もっと多くの障害者が参加出来る大会になるためには、普及方法、ルールの見直し等格段の取り組みが必要です。現在、京都の大会のほか、この日本大会、大阪大会、東北大会が開催されています。それぞれの大会に参加している又はしたことがある府県を上げると、山形、宮城、新潟、神奈川、福井、京都、大阪、兵庫、岡山、徳島になります。結構いろんなところでやっているものだとあらためて思います。大会を一本化するにはそれぞれのルールの違いもあり直ぐにということも出来ないのが現状です。

根っこには、障害のある人達のスポーツをする権利やスポーツ活動をどう保障して行くのか、あるいは生活活動領域の拡大という、欠けてはならない視点があると思います。

来年、京都の大会は20回を迎えます。「もつと沢山のチームが集まったら良いのね」という声も聞かえて来ます。今後を考える節目の大会になると思います。是非皆様方には良い智恵・アイデアをお寄せ頂くなど、大きなご支援をお願いしたいと思います。

車いすハンドボール

全員同じ目線で追うゴール

河嶋 恵

「そんなの関係ねー」小島よしお似の、髭の伊崎総監督が、口を横に広げ、白い歯を覗かせ、心温かい笑顔で仕切る車いすハンドボールは、笑いの金メダル。

ボールを追って車いすを思い切り漕ぐ、額には汗が滲む。身体はすでに活性化して、ストレスを体内から排出する体勢に入る。（次のページへつづく）

伊崎総監督の弾ける笑顔が、パスするボールを介し、急速に参加者全員に広がる。

学校や職場の人間関係などで鬱積した頑固なストレスが目の前を飛び交うボールを追って車いすを走らすうち、いつの間にかストレスを放り出し、心地好い充実感に変わる。

参加者全員の仲間意識が深まる瞬間でも。

15分間のゲーム中、コートの中は、昔からの長くいおつきあいと勘違いしてしまうほど和やかな雰囲気だ。ゼッケン組とノーゼツケン組が車いすに乗ってボールを奪い合うコートに、すでに新春の風が吹く。

ボールをうまく奪うと、膝に乗せ、両手に力を込め、車いすを漕ぐ。3回までだ。ハイフラインを越える前に味方にパスする。

捕球した味方が、ハイフラインを越え、そのままシートできないので、味方にパスする。これで、いつでもシートできる。

ゴール前には、車いすに乗ったキーパーが千手観音のように両手を大きく開き、回転を始める。ゴールは、この手に塞がれ、ボールを放り込めそうにな

い。思案する周囲に、敵と味方が陣取り合って入り乱れ、ゴール手前半円形の白線沿いにきれいに並ぶ。

シートを絶対に阻止してみせると、ボールの軌跡を予測し、注視するキーパーの眼が真剣に輝く。

シートしかけて、一度腕の動きを止めた直後、一瞬の隙を狙い澄ましたようにシートを放つ。キーパーの差し出す手の微か横を擦り抜け、ゴールに突き刺さる。

笛が鳴り、ゴールが宣言される。

シートを放った小学生は、大喜び。悔しがる大人のキーパーも、どこか小学生の成功を笑顔で称える。潔いふれあい。それも年齢差の大きいふれあい。どうです、ご一緒に。

京都障害者フライングディスク協会設立

太田 久雄

平成19年9月1日に京都障害者フライングディスク協会を設立しました。スク協会を設立しました。(フライングディスク)FDと略します)11月22日に新阪急ホテルにて、日本障害者FD連盟 吉田力

男事務局長出席のもと、認定証・記念品授与、発足式を行いました。

1960年代、米国のスペシャルオリンピックスのスポーツプログラムとして生まれたFD競技。日本では全国障害者スポーツ大会の正式種目となっており、京都においても、平成7年度より、ゆうあいFD大会、2004年より、全京都FD大会が開催されています。また近頃では第2回綾部FD大会、南丹市その他各地域でも大会が行われています。

愛好者も増え、一方では色々な要望に応えるべく協会を設立を考えていました。4月28日に会合をもち、5月5日に準備委員会を開きました(出席者9名)後6月17日、7月23日、8月26日と会を開き、会長、役員を選出、規約・事業案を決めました。その間、京都障害者スポーツ振興会に色々と相談にのってもらいました。お陰で設立に至ることが出来ました。有り難うございました。

今後は、会員一同、京都障害者スポーツ振興会や京都府FD協会の御支援のもと、FD競技を通じて、健全な心身の発達・健康の

維持増進、社会参加と自立を促進し、もって障害者福祉の向上に寄与することを目的として、活動協力していきますので、よろしくお願ひします。

役員

会長 太田 久雄
副会長 白猪 和広

監事 宮林 香代子
井関 悟

顧問 飯田 敏広
神波 東嶽
中宅 正啓
栗山 靖巳
梶原 隆

理事長 梶原 隆
事務局長及び会計

理事 山田 一博
鳥居 麻夫
平井 喜代子

米村 政美
中村 芳道
栢分 千晶

吉野 克典
西川 雅之
水島 豊

事業計画

4月19日 FD講習会
4月 京都障害者スポーツセンター
京都障害者FD協会

10月 第3回綾部FD大会 設立記念大会
第5回全京都障害者FD大会

2009年3月 京都府立丹波自然運動公園
平成20年度京都ゆうあいFD大会

京都障害者スポーツセンター
京都障害者フライングディスク協会事務局

お問い合わせは、
山田 075(811)5304まで

行事予定	1月	20(日)	障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	来月のつどいは 2 / 10 第2日曜日
			ゆうあいボウリング大会	福知山サンケイボウル	
	27(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽		
		第5回京都障害者チャンピオン卓球大会	京都市障害者スポーツセンター		
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (9月16日に一部更新)					